

令和元年度第1回館林市子ども・子育て会議 会議録概要

1 日 時 令和元年6月28日(金)午後3時00分～4時30分

2 場 所 市役所5階503会議室

3 出席者

【館林市子ども・子育て会議委員】 12名

森会長、永井副会長、大谷委員、角田委員、田村委員、荻野委員、鎌田委員、荒川委員、飯塚委員、小澤委員、平林委員、田端委員(以上名簿順)

【事務局】 13名

保健福祉部 : 中里部長(あいさつのみ)

こども福祉課 : 木村課長、妻神子育て支援係長、萩本保育係長、恩田主任、砂賀

児童センター : 鏡所長

健康推進課 : 野澤課長、島田母子保健係長

学校教育課 : 上村課長、荒川学事係長

生涯学習課 : 神崎生涯学習係長、山口青少年係長

【委託業者】

株式会社ワイズマンコンサルティング 山口研究員

【傍聴者】 なし

4 議 事

(1)館林市子ども・子育て支援事業計画 平成30年度実績について

(2)子ども・子育て支援に関するアンケート調査報告について

(3)第2期館林市子ども・子育て支援事業計画策定について

5 配布資料

・会議次第

・館林市子ども・子育て支援事業計画 平成30年度実績について: 資料1

・ニーズ調査結果まとめ: 資料2

・前回調査(平成26年調査)との比較: 資料2-1

・就学前児童保護者・小学生児童保護者クロス集計: 資料2-2

・量の見込みの算出について: 資料3

・館林市子ども・子育て支援事業計画(第2期)骨子案: 資料4

・第2期館林市子ども・子育て支援事業計画策定スケジュール: 資料5

6 会議内容（概要）

(1) 開 会

(2) あいさつ

(3) 議 事

① 館林市子ども・子育て支援事業計画 平成 30 年度実績について

・事務局より説明

【質疑応答等】

委 員：放課後児童健全育成事業の評価がCになっている。厳しい目で見ると国から提示されている放課後児童クラブの設置基準を満たすことができていない。そういう点を踏まえると達成できていないという評価になる。

資料1 P3 の今後の課題に書いてあるように「新放課後子ども総合プラン」を踏まえた対応が望まれるのではないかと。

会 長：幼稚園在園児以外を対象とした一時預かり事業と病児保育事業、ファミリーサポートセンターはBになっているが、説明をお願いしたい。

事 務 局：**資料1** P7 病児病後児保育については、計画策定当初の平成 30 年度の見込みが 2,632 人日に対して、利用実績が 283 人日。2,632 人日という大きな数値になっているが平成 26 年度策定時、30 年度には 2 事業所で病児保育事業を実施予定だったが、現状としてはこやなぎ小児科ぱんだのみとなっている。そのため、多く数字を見込んでいたが、年間の利用実績としては横ばいとなっている。P6 幼稚園在園児以外を対象とした預かり保育についても当初は 4,688 人日を見込んでいたが、実際の利用実績は 1,581 人日となっている。

会 長：確保の枠内の利用だったということですね。

事 務 局：はい。幼稚園在園児以外を対象とした預かり保育については、公立の成島保育園、渡良瀬保育園で実施している。平日月曜から金曜に実施している事業となる。

会 長：一時預かりがあるとご存知だったか。

委 員：支援センターを経由にサービスを知った。母親同士でも一時預かりが使えるよという話を聞くが、すぐにいっぱいになってしまうという話も聞く。

事 務 局：各施設 2 名保育士を配置しているが、年齢や子どもの様子によって、安全を考慮して 1 日受けられる人数に気を付けて実施している。

委 員：一時預かりについては週 3 回預けられるため、利用している人の中には就労している人もいます。未満児だと保育所に入所すると保育料が高くなってしまうため、一時預かりと収入のバランスをみて働いている人もいと聞く。

②館林市子ども・子育て支援に関するアンケート調査報告について

・委託業者より説明

【質疑応答等】

会 長：アンケート調査について他市町村と比べてどうだったか。

委託業者：他市町村に比べて、ニーズ量を算出していく中で、両親の働き方や就労意向により、家庭類型を算出する。埼玉県的都心寄りの自治体に比べると、共働き世帯が多い傾向がうかがえる。この周辺の自治体の特性とも考えられる。そういった面からも今後保育ニーズなどが高まっていくことになる想定される。

会 長：共働き世帯が多いと聞いたときに、館林市は働く環境が整っているという見方もできる。市内をみても企業の工場等職場が近場にある。市内の企業をみると食品関係の工場が多いため、女性が働きやすい環境が整っているように感じる。

委 員：各家庭の車保有状況は調査をしているか。群馬県は車が多い。車についても一家に2台はある。

委 員：群馬県の公共交通機関の利用率が館林は低い。電車の利用は半分以下。

委 員：群馬県の出生率について1.47と子どもの数も減っている。さらに、婚姻率も減少している。結婚相談事業の手伝いをしているが、登録者はいるが参加者が少ない。昔のように年齢をみて呼びかけもできなくなっている。今後も結婚支援も大切になってくる。

委 員：金銭的なものの支援が昔に比べて少なくなった。第1子の時はチャイルドシートの補助があったが今なくなっている。子どもの一定の時期にしか利用しないものが多い。そういったもののリサイクルやシェアをして、家計の余計な出費を抑えるなどの活動があるとよい。中学進学する頃は自然と出費が増えていくため、そういったところに経済的な支援をしつつ、小さいころは物の循環によって出費を抑えられると子育て家庭の支援になる。必ずしも就労して働かなきゃという状態も少なくなるのでは。支援センターでもシェアバザーをやっているが、大盛況。子育て家庭ではそういうのも求めているのかなと感じた。

事務局：まさに今回実施する子どもの総合相談窓口でやりたいと考えている。

会 長：そこに結婚相談所も併せても良い。

委 員：子どもの物をシェアできるというのはとても良いこと。そういった情報を発信していかなければ物も集まらないし、人も集まらない。行政や支援センターに情報を発信してもらえるようにしていくとよい。

委 員：支援センターの広報に載っている。できるだけ子育て世帯の出費を抑えてあげると少子化などにも繋がるかもしれない。

③第2期館林市子ども・子育て支援事業計画策定について

・委託業者より説明

【質疑応答等】

委員：子育て世帯のニーズに合ったものになってほしい。先ほど話題になったが、就労状況に合わせて一時預かりを利用していることはとても賢いと感じた。色々な取組などはあるが、情報が行きわたらない。様々な機関が連携して情報を共有して発信して子育て家庭に届けてほしい。田端委員のシェアやバザーについての情報提供は市報等を活用してすぐに発信して行ってほしい。

委員：基本理念について、子どもを主人公にしたものにしたい。まちの未来は子どもが作り出すといったフレーズが良いかなと感じた。放課後の居場所づくりについては、先ほどふれていたが、学童保育の利用は現在増えているが、今後は絶対数が減るため減っていくことが考えられる。今後量より質の時代になってくる。そういったことから、国からの基準を満たせるような展開をしていく必要がある。私は他の小学校がどのような活動をしているかを見たりしているが、前橋市の旧宮城村の小学校前を通った時に、子どもたちが校庭で遊んでいて、それをボランティアが見守って、最終的に集団下校をしている。行政で頼みたいのはどのような取り組みをしているのか問い合わせしていただきたい。どのような放課後子ども教室をしていて、ボランティアが何人いてどのような活動をしているか調べていただきたい。

会長：宮城町にある滝窪地区もあるがそこではないか。

委員：宮城小だったと思う。また、発達障害についての親の認識や知識が必要だと思う。小学校に上がった時に気づくのではなく、乳幼児期から子どもの発達に対する知識を親が取得して取り組んでもらえるとよい。

委員：障害を持った子どもの放課後の過ごせる場所について、市内に8か所ある。少しずつ増えている。今年4月に放課後デイGrannyができ、重度心身障害のお子さんを受け入れられる事業所ができた。徐々に増えているので、障がいを持つお子さんをもつ親御さんにひかりがさしているように感じる。骨子案の第4章の施策の展開（2）その他の子ども・子育て支援という表記については表記を検討していただきたい。障害を持っていても、持っていなくても同じ地域で共生していくという考えもある。

会長：ひとり親という表記も考慮してもらいたい。ひとり親家庭に対する偏見もあつたりするので。

委員：アンケート調査をみると幼稚園より保育園や子ども園への利用意向が高

まっているように感じている。幼稚園についてPRが足らなかったかなと感じ、幼稚園の理解をしてもらえるように周知活動をしている。幼稚園も預かり保育を実施しているので、就労している方に向けてPRをしているところ。また、園内では知っている親同士で園服など使わなくなったもののリサイクルをしている。

委員：里沼という日本遺産を得たので、そこで移住しませんか、子育てしませんかというPRが必要。

委員：成島保育所では一時預かり保育を実施している。最近では0～1、2歳が多く、特に0歳が多くなっている。会議の中で、一時預かりについて宣伝したらどうかという意見が出た。南保育園ではシェアについて、保護者会の会長さんが興味関心を持っていて、園服などのリサイクルはできないかと相談を受けた。保育参観の時に合わせて、実施をしたところ盛況だった。

委員：実は4人目ができた。脱少子化に貢献している。子どもが成長したり、多くなったりすると教育費について気になっている。子どもの成長に合わせてだけでなく、子ども的人数に合わせて、無償化などの支援を充実してほしい。また、自由記述についても回答者の思いや不安など多くの意見が出ている。回覧ではなく、すべての人に配ってはどうか。

委員：各学校でバザーを実施している。そういったときに、体操着なども出たりする。ぜひ小学校のバザーも利用していただきたい。アンケート調査について回収率が前回に比べて、とても良かった。基本理念は、「子どもたちの安全・安心を地域で見守り、育てるまち」と考えた。

委員：自由記述についてとても大切。不安と不満が多くあがっており、よくみると他市町村の状況との比較が多い。0歳児を持つお母さんと話す機会があったが、お金や子育て支援の状況を見て、友達が他市町村に引っ越してしまうと聞いた。自由記述について、項目を立てて分類ごとに分けていただきたい。また、「知る」ということが必要。アンケート調査を見た時にぼんちゃんの子育てナビや市の相談窓口が利用されていない。もっとネットをうまく活用してほしい。親同士の口コミも多いが、アンケート調査をみると親から情報を得ている人も多い。おじいちゃん、おばあちゃんに子育て支援の周知も必要だと思う。

委員：市のイベントの日程が重なることが多い。担当課同士が調整してそれぞれ別の日程を設定していただきたい。里沼などを活用したカヌー体験など館林市ならではの取組していただきたい。館林市の自然を活かして子どもが成長できるようにしてほしい。

(4)閉 会